

竹の子川柳会

あたらしいくつをはいたようらしいな

小一 西村 楓斗

エミフルのくつやさん行くカッコイイ

小二 新野 翔太

友達にせなかをおさがればれと

小五 山田 清也

きようそうで風におされて一位だよ

小六 石崎 海士

となりの子いつもライバル意識する

小六 梶野 海斗

横書きで友達に手紙書いて出す

中一 淵本ななみ

靴だけはいつもきれいにしときたい

中三 清原 瑠依

新品の長ぐつと傘はずむ雨

中三 吉良ちひろ

つぼを押す心と体あたたかい

中三 菅元 聖羅

しんどいな少しの間横になる

高一 清原 沙耶

好きな子の横に立つため奮起する

高二 宮崎 京

友達の言葉で背中押されてく

高三 上岡 夢菜

夢つかむおしたトビラの先みすえ

高三 榎 美咲

おし花をげんかんかざりおもてなし

高三 宮川 直輝

夢枕若い思い出つれて来る

宇都宮 忍

青春には未来に夢を抱いてた

水野すみこ

夢を追うまだまだ捨てぬ八十路坂

川添 忠昭

頑張は滴る汗にいだく夢

熊本 忠真

壮大な夢もあつたさホームレス

宮川 柳酔

検査の水飲むに体も苦勞する

男武志津江

水のように型にはまらず生きていく

伊勢本 恵

水彩画心落ちつくうすい色

加藤 桂子

汗にした水受け込んだ胃に感謝

渡辺 照子

確執を水に流して義母介護

山本 雅之

余生まだ昨日の番組追いつけ

若宮 賢敬

番組を消し虫の音に耳澄ます

渡辺 光男

夕焼けに明日の番組聞いてみる

米子 達雄

ひよし川柳会

鬼北の足跡を辿る…【第4回】

「古墳時代から律令時代」

弥生時代に続く古墳時代は、列島各地に巨大な墓・古墳が築かれた時代です。3世紀後半から7世紀後半までの、およそ400年間の該当します。古墳には、地域の指導者やその一族が葬られました。

南予地域では、宇和盆地に集約的に古墳が築かれていきます。八幡浜と宇和の堺にある笠置峠古墳をはじめ、以降も連綿と古墳が築かれ、続く律令時代においても役所に関連した遺跡が見つかるなど、南予の中心的な場所だったことが、考古学の研究から明らかにされてきました。

では、この頃の鬼北地域はどうだったのでしょうか。町内に国遠古墳や中野川の一ノ又古墳など、古墳の可能性があるとされる遺跡が存在しますが、宇和から南側の地域で、学術的に証明された事例は今のところありません。

皆さんは歴史の論争に、「七五三論争」というのを耳にしたことがありますか？これは、文献史上の日本の国家形成の時期をめぐる論争として有名です。考古学の面からも議論されてきましたが、古墳が造られた地域とそうで

ない地域があることは、日本の古代国家形成の過程を考えるうえで、大変重要な問題です。

七〇八世紀にかけて、日本最古の文献史料である「日本書紀」や「続日本記」が編纂されますが、その中に七世紀後半から末頃、天皇の命により伊予国で辰砂（水銀）を採掘し、献上をしたといった記事があります。辰砂が採掘する場所といえば、日吉の父野川中・宮成地区の「父野川水銀鉱山跡」周辺が、最有力と考えられています。

遺跡としての発見は未だありませんが、将来、古代の歴史解明につながる大発見があるかもしれませんね。



父野川水銀鉱山跡の周辺(宮成地区)